

2019 年度専門学校東京ビジネス外語カレッジ
学校関係者評価実施報告書

評価対象期間 自：2018 年 4 月 1 日
至：2019 年 3 月 31 日

2019 年 8 月
学校関係者評価委員会

学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

専門学校東京ビジネス外語カレッジにおける学校関係者評価の目的を以下のように定める。

①自己点検自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価をおこない、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②企業・関係業界など、専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。

2) 基本方針

専門学校東京ビジネス外語カレッジにおける学校関係者評価は、『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って行うことを基本方針とする。

3) 委員会運営

2019年度における学校関係者評価委員会を、以下のように年1回開催する。

2018年度（前年度）の運用実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告する。

2018年度から2019年度のコース別に重点的に取り組んでいる事項の発表及び、今後の目標・計画を発表する。

2019年度のカリキュラムを皆様にご説明した上で、業界・企業からの要望を承り、PDCAサイクルを元に今後の改善策を協議する。

2. 学校関係者評価委員名簿

学校関係者評価委員として以下、企業、関係業界に委嘱した。

氏名	所属	属性
中田 昌孝	株式会社ザイマックスインフォニスタ 代表取締役社長	企業・業界団体関係者 (GB)
中村 智由	一般財団法人日本病院管理教育協会 事務局次長	企業・業界団体関係者 (CH)
遠藤 乙彦	株式会社グローバルビジネス戦略総合研究所 代表取締役社長	企業・業界団体関係者 (GB)
野上マルドナド知代子	株式会社グローバルビジネス戦略総合研究所 客員研究員	企業・業界団体関係者 (GB)

鈴木 勝	大阪観光大学 名誉教授／(元・桜美林大学教授)	企業・業界団体関係者 (CH)
繁田 豊	日通旅行株式会社 団体営業部次長	企業・業界団体関係者 (CH)
高橋 恵介	一般財団法人 EDAS 理事	企業・業界団体関係者 (CH)
荻野 正昭	学校法人 ISI 学園常務理事	法人代表者
井上 由紀子	学校法人 ISI 学園評議員	法人代表者
並河 克彦	専門学校東京ビジネス外語カレッジ校長	法人代表者 (事務局)
伊藤 玲	専門学校東京ビジネス外語カレッジ教務副主任	法人代表者 (事務局)
川本 千陽	専門学校東京ビジネス外語カレッジ教務チーフ	法人代表者 (事務局)
梅田 拓	専門学校東京ビジネス外語カレッジコース担当	法人代表者 (事務局)
新藤 俊哉	専門学校東京ビジネス外語カレッジコース担当	法人代表者 (事務局)
若林 繁実	専門学校東京ビジネス外語カレッジ事務局長	法人代表者 (事務局)

※株式会社ザイマックス総務人事部国分宏樹氏が中田昌孝氏と同行して参加

3. 学校関係者評価報委員会の実施状況

1) 学校関係者評価委員会実施日時・場所

日時：2019年8月7日(水) 10:00 から12:00 (昼食意見交流会～13:00)

場所：専門学校東京ビジネス外語カレッジ 全体会：7Fラウンジ

分科会：グローバルビジネスコース：501、英語ホスピタリティコース：502、
日中医療通訳コース：301

2) 学校関係者評価委員会 進行状況

2019年度学校関係者評価委員会日程		
会議次第		
時間	項目	担当者
10:00	開会挨拶	荻野常務理事
10:10	委員紹介	事務局
10:15	議事：ポリシー・教育目標紹介、2018年度自己点検・自己評価実施報告	事務局
10:40	質疑応答	各委員
10:50	休憩	
11:00	分科会・カリキュラム編成委員会：キャリア等に関するコース別意見交換	コース担当
12:00	昼食・意見交流	事務局
13:00	閉会挨拶	並河校長

4. 基準項目ごとの学校関係者評価及びご意見

基準1：教育理念・目的・育成人材等

将来構想は素晴らしいと思いますし正しい方向性だと思います。これを実現させるには、もっと企業と戦略的に連携し、より高い次元の教育を行っていく必要があります。また、専門学校から職業専門大学になることで、やれることも増えるし、外部からの見え方も変わってくるでしょう。「構想」を実現するためにも、具体的なアクションプランを作成が重要と考えます。

一般的に教育機関の理念・目的・育成人材像は抽象的になりがちだが、同校では具体的な行動指針のもと実践しており、それが大きな成果につながっていると思われまます。

理念・目的・育成人材像が一人ひとりの教職員の人事考課にまで落とし込まれていることで、常に全職員が理想の教育機関の在り方を意識していることは高く評価できると思います。また、ISI学園が希求している理念を外国語でも発信していることで、23か国315名の学び舎になっていることが理解できます。

キャリアセンターの新設による就職実績は注視ポイントだと思います。

基準2：学校運営

日本人を中心とする専修学校ではなく、圧倒的に外国人留学生が多い学校運営は極めて難しいことが推測されますが、「事業計画設定」「組織・意思決定機能」「人事・賃金などの諸制度」など運営面で極めて円滑なることを、伺い知ることができます。「日本人：外国人＝1：1」の目標達成は、現在の円滑なる学校運営が基礎になるものと信じて疑いません。

制度変更に伴う社会の変化に対応するために「3か年計画中期事業計画」、「年度計画」のチューニング等、即応した学校運営をすることで、企業の人材ニーズへの対応が進むことが期待されます。特に昨年から今年、大きく変更された外国人受入れ関連制度等、今後も政府の動きに対応した学校運営も肝要と思われまます。その体制が整っていることは高く評価されます。

学校運営の肝は教員・スタッフにあると思います。優秀な人材を確保するための施策もより推し進めてゆく必要があると思います。

基準3：教育活動

弾力的に運用できるカリキュラム、学力差に対応した教材、クラス運営等は有益な施策ですので、充実化を図ることが重要です。一方でコスト増に繋がることもありますので、留意が必要かと思われまます。

授業評価のための組織体制の強化と、年2回の満足度アンケートの実施は高く評価できます。特にICTを使ったより正確で広範囲なアンケート調査の実施で、改善に有用な情報や、教師の自信につながる意見が得られ、教育活動の質を高めることにつながることを期待されます。

社会のニーズに合わせて教育内容の見直しが毎年行われている点は素晴らしく、科目の改訂・新科目導入という形で実現されています。国内外での単位互換・認定についても、今後の発展が大いに期待されます。

基準4：教育成果

進路指導と資格取得の充実が図られていることは評価できます。

また、入学時の厳しいスクリーニングで退学率が低く抑えられていることは評価されます。

卒業生による求人紹介の増加は頼もしい限りです。

資格取得は学生の実力の分かりやすい証明になるので、実社会で役に立ち、評価される資格取得の支援は積極的に行って欲しいです。

グループのキャリアセンター創設や資格取得の促進など、具体的な取り組みを通して高い就職内定率を実現しています。企業と連携したプレゼンテーション大会の実施も素晴らしい取組だと思います。

基準5：学生支援

外国人留学生が多い中、きめの細かいケアは大変なところですが、メンタル面も含めて、しっかりとした対応が重要だと思います。いかにより深いコミュニケーションを一人ひとりの学生と取ってゆくか、全スタッフで共有してゆく必要があります。

担任、事務局、キャリアコンサルタントと、学生が相談できる体制が整っていることは評価できます。メンタル面でのカウンセラーの配置については確かに急務でしょう。また、学生の経済的側面での支援、優秀な学生に対する奨学金の制度は、本校の優位性にも資するものとなると考えられるので、是非実現していただきたいと思います。

海外からの学生にとって、日本での生活や勉強、就職は戸惑うことも多いと思います。メンタル面や健康面での学生のサポートは重要であり、サポート体制が必要だと思います。

学生の経済的な支援について、TBLの学費免除以外にも、可能な限り、奨学金の種類を増やしたり、適用枠を広げることが好ましいと思います。

卒業生のネットワークは極めて重要だと思います。現学生の就職支援のためだけではなく、学校としての評価を高めるためにもその支援は必要です。

基準6：教育環境

カリキュラムが多様化してゆく中で、プログラムの充実化に加え、「安全、安心」の確保も重要だと思います。学生・教員・スタッフ、学園全体で意識づけをしてゆくことが重要です。

教育環境としては、校舎がかなり狭く、いつもごったがえしているイメージがあります。もう少しゆとりを持って、学生の課外活動も支援するなど、校舎に対する不動産投資も必要だと思います。

日本人学生に対する知名度や魅力度を上げるためにも、海外の著名大学とのさらなる連携が必要だと思います。

防災対策に関しては、学生に周知するとともに、校舎内に防災備蓄品を常備する必要があります。

学内のICT化によって先進的な教育環境整備が整ったことは素晴らしいと思います。今後のICTの利用について研究と更に効果的な導入が必要になると考えられます。

基準7：学生の募集と受入れ

今年度から設立されたマーケティング事業本部が効果的な募集展開をしているのは心強いと思われ
ます。今後優秀な学生の入学と卒業後の活躍のためにも戦略的な学生の募集を続ける体制が整ってい
ることは評価できます。

「学生の募集と受入れ」に関して、適正に実施されている様子が詳細に報告されています。今後とも
入念な募集と受入れを期待したいと思っています。

日本人を含め多国籍の学生を受入れるための日々の努力と経験、実績が報告書から伺えます。優秀な
学生に対する奨学金の拡充により、他の留学生を受入れしている機関との更なる差別化を図っていく
ことが期待されます。

基準8：財務

財務基盤が安定していることは極めて高く評価されます。

財務状況をホームページで公開されており、透明性と正当性が確保されていると思います。

「財務全般」に関しまして、適正に行われている様子が詳細に報告されています。今後とも適切な実
施と発表を期待しております。

基準9：法令等の遵守

「法令・設置基準等の遵守と適正な運営」、「個人情報保護対策」、「自己点検・自己評価の実施
と問題点の改善」、「自己点検・自己評価結果の公開」に関して、詳細に報告されていますが適切に
行われていることが理解できます。

コンプライアンスに対する意識は高いが、内容については担当者によって温度差が生じています。大
事なことなので更なる取組を望みます。

法令等の遵守については明白で安定的な学校運営をしていることは高く評価されます。

基準10：社会貢献

学生のボランティア活動の単位化は今後の検討課題。豊島区のグローバル化は進んでいるので、地域
との国際交流は更に推進することが望ましいと思います。

現在の与えられた環境の中であって、社会貢献が種々なされている様子が記載されています。これ
からも現在の状況で進んでいくことを期待しております。

地元の警察・消防との連携・協力は大変好ましいです。災害時の語学ボランティアなど、同校の特色
を大いに活かした協力は今後重要度を増し、同校の存在感を示すことにもつながると思われ
ます。

5. 分科会・カリキュラム編成委員会

グローバルビジネスコース、英語ホスピタリティコース、日中医療通訳コースの3コースに分
かれ、各コースの企業、業界関係者から意見をいただく。

グローバルビジネスコース企業担当：ザイマックスインフォニスタ中田社長、グローバルビジ

ネス戦略総合研究所遠藤社長、客員研究員野上様

英語ホスピタリティコース企業担当：大阪観光大学名誉教授鈴木様、日通旅行繁田様

日中医療通訳コース企業担当：日本病院管理教育協会中村様、EDAS 理事高橋様

2018年度-2019年度のカリキュラム、時間割、テキスト説明、コース別キャリア志向、取得資格、就職実績を説明し、各企業からの要望を伺う。それらを元に2020年度のカリキュラム改訂の検討材料とする。

6. 専門学校東京ビジネス外語カレッジとして

今年度の学校関係者評価委員会は、全体会として2019年度ポリシー、教育目標の共有、2018年度自己点検・自己評価の説明とフィードバック、分科会として各コースに分かれ教育課程編成委員会を実施。コースごとに業界関係者・企業担当者が意見交換会を実施した。

企業ニーズと学校カリキュラムのマッチングを図るうえで非常に有意義な会議となった。

私ども専門学校東京ビジネス外語カレッジスタッフ一同、学校関係者評価委員会から頂戴した評価、ご意見を真摯に受け止め、今後のカリキュラム展開や学校運営に活かしていく所存である。

また、更に学校が成長・発展を遂げるため、尚一層の努力を重ね、地域・社会貢献のために企業ニーズに直結したグローバル人材を育成・輩出していくよう注力する。

以上

2019年8月7日

2019年学校評価委員会事務局